

### Ⅲ 健康で豊かなくらしのために 処理水でよみがえった府内城のお堀

きれいになる前のお堀

（水を入れ、きれいに  
しようとこころみました）



（機械で底にたまった  
ものをとりのぞきました）



（ホテアオイを入れて、水を  
きれいにしようとこころみました）



気持ちがいいのは  
鳥や魚だけかな



### 下水から生み出す資源

#### アメニティ下水道

下水処理水を有効に活用することにより、市民生活をより快適（アメニティ）なものにするを目的につくられた下水道のことを「アメニティ下水道」といいます。



弁天水資源再生センターできれいになった処理水が2,063m先のお堀まで送られます。





# 役に立つ資源としての再利用

## 大分市で行っている再利用

### 〈処理水〉



処理水を市役所第2庁舎や保健所内の  
トイレの洗浄水として

### 処理水の販売



植樹帯などの散水用として

### 〈汚泥〉



汚泥は水資源再生センターから運び出され  
セメント工場で製品の原料に使われます

## そのほか考えられる再利用

### 〈処理水〉



公園のふん水として



工業用水として

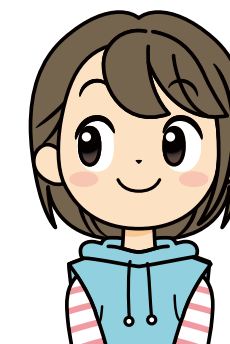
### 〈汚泥〉



歩道に使われる汚泥ブロックの原料として



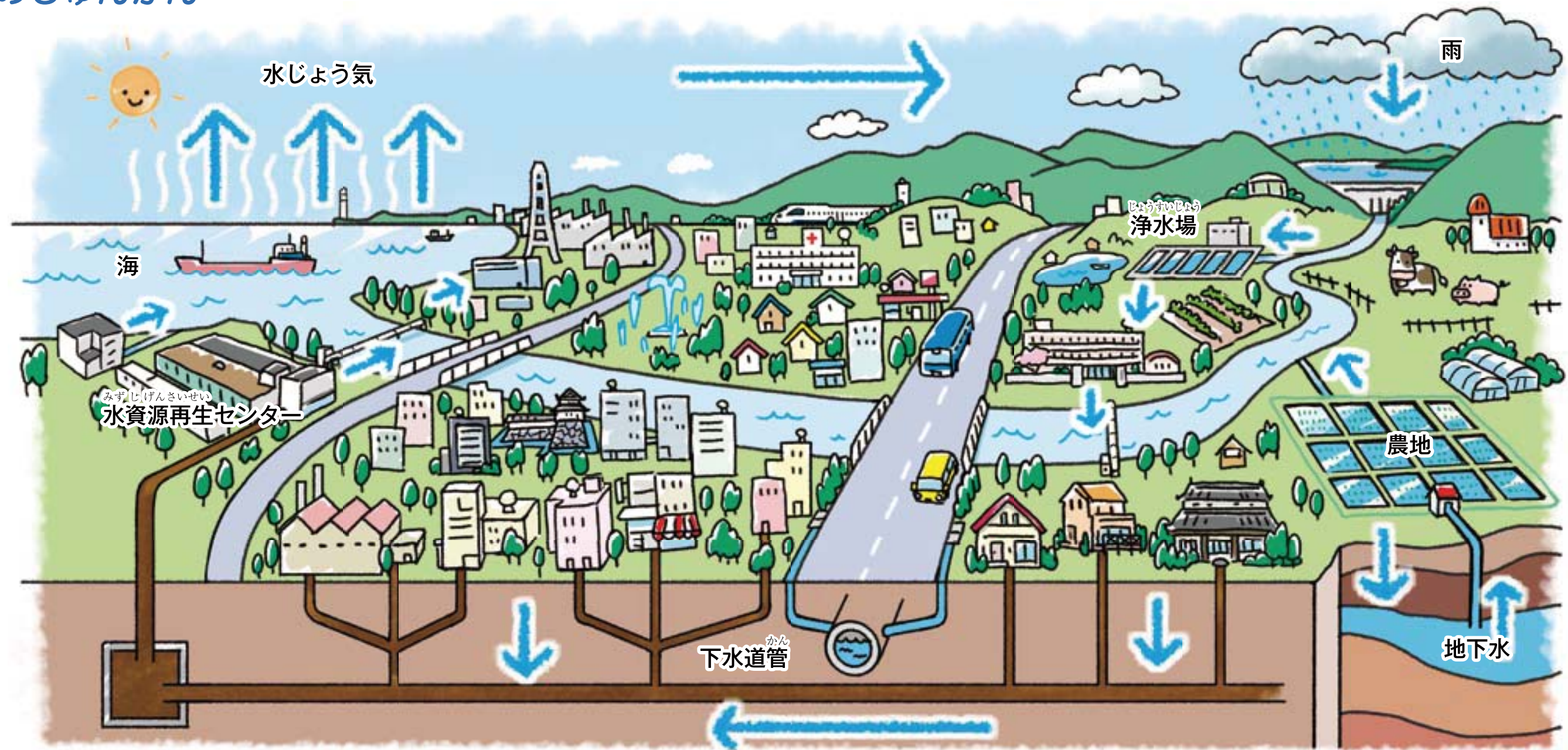
固形燃料の原料として



大分市でも、汚泥を燃料として再利用するための施設をつくっているよ



## 水のじゅんかん



川や湖からくみ上げられた水は、わたしたちの生活や工場のなかで使われます。使われた水は、再び川や海に流れこみます。海の水はじょう発して、雲をつくり、雲は雨をふらせます。雨水は川や湖に流れこみ、そこからまた、水がくみ上げられます。これを水のじゅんかんといいます。

下水道は、この水のじゅんかんのなかで、よごれた水をきれいにしてから、川や海にもどすという大切な役わりをもっています。下水道がなければ、よごれたままの水が流れこんで川や海はきたなくなり、きれいな水を使うことがむ

ずかしくなります。

わたしたちの生活が豊かになるにつれて、使われる水の量はだんだんふえていき、産業が発達するにつれて多くの水が必要になってきます。しかし、水には限りがあり大切に使わなければなりません。

このような意味からも、一度使われた水をきれいにしてから川や海にもどすという下水道の役わりは、この先もわたしたちの生活のなかで、大切になっていくことでしょう。